

(様式第7号)

おおさかグローバル奨学金留学報告書

2015 年 2 月 28 日

学 校 名			奨 学 金 交 付 年 度	2014 <sup>平成</sup> 25 年度
氏 名				
留 学 期 間	平成 26 年 8 月 15 日 ~ 27 年 5 月 21 日			
留 学 先	国 名	アメリカ合衆国	学校名	アメリカン大学
専 攻	国際関係学部			

留学中の生活、留学の成果、留学で得たことをどのように活かすか、これから留学する人へのアドバイス等について2000字以上で記入してください。

私は立命館大学の国際関係学部に進学してから、アメリカの首都であり世界に対して政治面だけでなく多方面でとても影響力や力があるワシントンD.C.で国際関係学を学びたいと考えていました。そして、アメリカン大学は立命館大学と交換留学制度で提携している大学であり、アメリカで全米有数の国際関係学の研究所という私にとって望ましい環境でした。したがって、私は大学進学と同時にワシントンD.C.である、アメリカン大学で国際関係学を専攻することを目指し、自分の視野を広げ多方面で物事を考えられるようになるため、常に高く目標を持ち留学の応募条件を満たすため成績面と英語力の面での努力と、日本での国際関係学に対しての考え方を学び、アメリカ留学時にアメリカでの国際関係学の考え方・捉えられ方の違いについて理解できるよう最大限の努力をしました。

8月15日にアメリカに着き、最初の一週間は留学生のオリエンテーションと入学者に対するオリエンテーションでした。アメリカン大学は全世界からの留学生が多く、とても多様で違う文化や価値観を持った人達が集まっている場所でした。なので、留学生に向けて開かれるイベントや交流機会があり、学校の紹介やアメリカだけでなく同じ留学生としての辛さや新しい環境に慣れることの難しさを共感できる外国人留学生の友達をつくる機会を得る事ができました。これは、すごく良い機会で私の約9か月の留学の間、学業面での意見交換や休日には一緒にワシントンD.C.やニューヨークなどを観光できる仲の良い友達も得ることが出来ました。そして、オリエンテーションを通して生徒の約半数は国際関係学を専門に専攻していることを知り、オリエンテーションの初日から少しずつお互いに意見交換をし合うことが出来てこれからの留学生活に希望と楽しみを抱いていました。

オリエンテーションから一週間後には学校の授業が始まりました。慣れない学校に不安と期待を胸に抱きながら授業初日は迷いながら教室に着きました。アメリカでの慣れない環境になれることと、たくさんの選択肢から自由に授業を選べたこともあり前学期は比較的難しくない経済学の授業と以前から興味があった言語の授業の3つのクラスを取る事に決めました。一つの授業85分から170分で週に2回もしくは3回ありました。授業の内容は、日本にいた時から英語で授業を受講しディスカッションなど意見の述べる場が多かったのでそんなに難しいと感じることはありませんでした。だから、私は一つ一つの授業をアメリカ人や他の留学生と共に参加していく上で比較的楽しむ事ができました。

生活面では、アメリカン大学の留学生は寮に住む事が必須としていました、またそれと同時に、食事も学校内で済ませられるようにミールスワイプというものを各学期につき買う事を買う事が義務づけられていました。アメリカには以前にも留学経験があり、日本との文化や食事面の違いは頭で十分に理解しているつもりでしたが、やはり留学中のストレスの大きな原因になりました。バスタオル一枚で廊下を歩いたり、深夜遅くまで大音量で音楽を聴いたり電話をしたりする人が多く、私のルームメイトもその一人でした。私は勇気を出して彼女に話しましたが文化の違いだろうということで片付けられてしまい、最後には私が悪者のように周りに言われてしまい、とても辛く悲しい思い出になりました。一方で食事面では、カフェテリアではピザやフライ、ハンバーガーなどの揚げ物が多いのに対し、野菜が極端に少なく栄養が偏る食事しか提供されておらず自身の健康面を日本にいた時以上に気にし始めるようになり少しでも体に良いものを選び食べるようにしていました。

授業外では校内で、海外に留学をしたい人や2カ国語以上を話す人向けにランゲージパートナーというプログラムが提供されていることを知り、私は英語やそれ以外の言語にも興味があったので迷わず応募することをしました。私は運良くパートナーが見つかり、中国語と英語を話せる人と週に2回ずつ会い、互いに中国語と日本語を教えた文化の違いや共通点、考え方や価値観が異なることを少しずつコミュニケーションを取る上で知る事ができ自分にとってとても良い経験になりました。

11月にはボストンキャリアフォーラムが金曜日から日曜日の3日間開催されており、機会があったので参加しました。私は当時まだ2年生だったので実際に就職の為に面接を受けることはできませんでしたが、実際に自分の目で見ることにより就職活動に対して少しの見当をする事が可能であったのと将来について考えられる場所が出来たのでとても良い機会になったと感じています。

またアメリカン大学は長期の休みには閉寮され寮以外の場所に泊まる必要があったので、サンクスギビングの休みにはアメリカで新たに出来た友達と一緒に初めてニューヨークに行き、ブロードウェイや自由の女神を見たりブラックフライデーには買い物を楽しんだりしました。また冬休みにはボストンの大学に行っている日本人の友達に訪ねました。初めての土地を訪れることに対する恐怖心はあまりありませんでしたが、日本人の友達がアパートに泊めてくれたり、道に迷った時に地元の人に助けてもらうなど色々な場面で社交的なアメリカの方々から助けをもらい人の優しさに触れ全てに感謝しました。

留学前半は、特に生活面での新しい環境に慣れることに苦労したと同時に、ワシントンD.C.という政治の中心で留学できたことに対して感謝し、新たな友達を作り少しでも機会があれば学生と意見交換をし互いに理解を深めることを勤めました。

※上記の内容については、公表される場合があることを了承します。